

核となる体験活動の実際【第1学年の実践】

1 テーマ

「ひろがれ えがお」

2 目標

- 家族のことや自分でできることを考え、実践したことをまとめたり表現したりすることができる。
- 家庭生活は、家族の温かさや家族の仕事によって支えられていることや、自分も家族の一員として役に立っていることに気付くことができる。
- 家の人や地域の人にむかしからの遊びを教えてもらって、楽しく遊んだり交流したりしてかわりの楽しさに気付くことができる。

3 第1学年で目指す基本的・汎用的能力を身に付けた児童の姿

人間関係形成・社会的能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
あいさつや返事をする ことができる。	きまりを守ろうと することができる。	自分のことは自分 でできる。	係や当番活動に取 り組み、それそれ の大切さに気付く ことができる。

4 活動の実際

- 核となる活動 1

	学習内容及び活動
課題に出会う	1 家族のいろいろなえがおを思い出し、自分もえがおが増やせるような仕事に挑戦しようとする意欲をもつ。 かぞくみんながえがおになることをかんがえよう。 ○ 自分のシューズあらいを行う。 ○ これまで家族がどんな時に喜んでくれたのかを思い出す。 ・お家の人の仕事探しをする。 ・自分達がいろいろな手伝いをしたことにより、家族が喜んでくれたことを想起する。 ・見つけた仕事を発表する中で、たくさんの仕事があることに気付かせる。 ◎ 児童の感想 ・おしごとっていっぱいあるんだな。 ・たいへんそうだからおてつだいしよう。 ・つかれているなか、しごとをして、おうちのひとはすごいとおもった。 ○ 自分が取り組みたいことを決める。
	2 喜んでもらえる仕事を自分で見つけ、やってみようという意欲をもち、工夫をしながら実行する。 ○ 家庭で自分達が考えたことを実践する。 【家族にここに大作戦パート1】(時間外) ・がんばりカードを配付し、1週間自分の決めたお手伝いに挑戦する。 ○ 実践を振り返る。 ○ ゲストティーチャーから仕事のこつや工夫を学ぶ。

○ アンケートの結果を紹介することで、家の人々の笑顔を見つけないという意欲をもつことができるようにする。

○ 家族が「にこにこ」する場合として、次の3つに分類しながらまとめていく。

- ① お手伝いをする
- ② 自分のことは自分でする
- ③ 家族が楽しくなることをする

☆ おうちにはどんなしごとがあるのか、さがしてみよう！

おせんたく	おむすび	
といての おしり	おひるの いれ	
でんき	くつあらい	
あさごはん	くちまあらい	
しごとあらい	うやめかたすけ	
おふろ	ぶいしほし	
ごみ	ひのこみ おろつけ	
げんき	おはやく	

☆ おうちのしごとさがしをして、おちったことをかきましよう。

おうちの人のおはやくいはいしていき
かいそうごつかいしたりしてかきまはるお
あさんとおはやくは、すてきいよお
ました。



- ・懇談会で保護者に説明を行うことで、取組についての理解を図り、支援をしてもらう。
- ・意欲が継続するように、朝の会等で取組の様子を紹介する。
- ・学級通信を通して、保護者への理解を深める。
- ・学級内で、お手伝いをしている児童を称賛し、意欲の向上を図る。

課題解決	・前時の学習を振り返る。 ・洗濯物を実際にたたませる。 ・ゲストティーチャーの実演をVTRで視聴する。 ・ゲストティーチャーに登場してもらい、気付いたことや質問を発表する。 ・個人で洗濯物をたたむ。 ・ゲストティーチャーの話を聞き、実演を実際に見る。 ○ 家の人をもっと笑顔にするために、計画を立てる。 ○ 計画を立てたことを実践する。 【家族にここに大作戦パート2】(時間外) ○ 実践を振り返る。 ・保護者からの手紙を児童に読ませることで、家族の役に立っていることや自分の成長に気付くことができるようにする。 ◎ 児童の反応 ・洗濯物のはしとはしをそろえることが大切だと分かった。 ・はやくたたむためには、毎日続けることが大切だと思った。 ・それぞれのおうちで、たたみかたがいろいろあるということが分かった。
まとめる・伝える	3 友達と仕事を紹介しあう中で、してみたい仕事を見つけたり、友達の良いところに気付いたりすることができる。 ○ 発表会の準備をする。 ○ 「家族にここに大作戦」発表会をする。 ・コツや、やり方の秘密をワークシートにまとめる。 ・ワークシートをもとに感想や質問を発表し合う。 ◎ 児童の反応 ・たくさんのコツや秘密を知ることが出来て嬉しい。 ・授業が終わっても、お手伝いを続けたい。 ・お家の人のがおがたくさん見られた。 ・お家の人に喜んでもらえて嬉しかった。



- ゲストティーチャーの実演を見ることによって、自分との違いを考えるとともに名人になるポイントを見つけることができるようにする。
- ゲストティーチャーがたたむ時間も計っておくことで、自分のたたみ方と比較することができるようにする。
- ゲストティーチャーの話や実演から、名人になる3つのポイントをまとめ、そのポイントを意識させながら実践させる。



- パート1とパート2の気付きの変容
A児

ちよとだけたたむのがむずかしかったです。
おうちのしとが人ばてている人たななとお
もいました。ちよとたたむのがはすれていました。
ちよとだけたたむのがむずかしかったです。



つめかたはたおるをしたにすると
いいですよそれではんかちよとがむず
かしいです。すまへやかたづけかたは
おもちゃとかをさきにたたむといいです。
なせかちよとたたむときよくついでに
したとお家の人からかたです。

○ 核となる活動2

	学習内容及び活動	
課題に出会う	1 テーマについて話し合う。 むかしからの遊びにちょうせん ○ 季節の遊びを振り返って冬の遊びでしたことのあるものを出し合う ◎ 児童の反応 ・ 冬休みにお父さんとたこあげをした。 ・ いとことすごろくをした。 ・ 家族でカルタをした。 ・ トランプをした。	・ 自分が知っている遊びを発表し合う。 ・ 冬休みにやった遊びを発表し合う。 ・ 本を見たり、友だちの発表を聞いたりしてやってみたい遊びを出し合う。
	2 学校にある道具を使ってむかしからの遊びをやってみる。 ◎ 児童の反応 ・ 楽しい。 ・ なかなかうまくできないな。 ・ どうやって遊ぶのだろう。 ・ はじめてやってみた。 3 学習課題を決めよう。 もっと上手にできるようになるにはどうしたらよいか考えよう。 ◎ 児童の反応 ・ ぼくのおじいちゃんはこま回しが上手だった。 ・ おばあちゃんとお手玉をしたら上手だったよ。 ・ おじいちゃんやおばあちゃんに教えてもらおう。 4 計画を立てよう 家の人やおじいちゃんおばあちゃん方と一緒にむかしからの遊びに挑戦する計画を立てよう。 ○ どんな遊びを一緒にしてもらおうか話し合う。 ◎ 児童の反応 ・ こまをおしえてほしい。 ・ おはじきってどうやって遊べばいいか教えてほしい ○ どんな準備をすればよいか話し合う。 ◎ 児童の反応 ・ はじめの言葉を言う人を決めよう。 ・ お礼の言葉を言う人を決めよう。 ・ お礼のプレゼントをしよう。	・ 学校にある竹とんぼ、まり、けん玉、あやとり、こま回し、おはじき、お手玉、めんこなどを使ってむかしからの遊びを一通り経験させる。   ○ 自分たちで組み立てたぐにゃぐにゃだこを運動場で揚げた。 ○ こま回し、おはじき、お手玉、あやとり、めんこ、ゴムとび、けん玉の7つの遊びを教えてもらう計画を立てた。

課題解決	5 むかしからの遊びに挑戦する。 ※ 今回はインフルエンザが流行したため、保護者に来て頂きことができなかった。体育館でお手玉、おはじき、ゴムとび、めんこの4つの遊びを学年全体で体験した。 ◎ 児童の反応 ・おはじきをたくさんとれてうれしいな。 ・友だちと遊んで楽しい。 ・先生たちはいろいろな遊びを知っているんだな。 ・ゴムとび難しかったけど少しできるようになってうれしいな。 6 活動のまとめをする。 ○ 気付いたことや思ったことをまとめる。 ○ ワークシートをもとにして発表し合う。 ◎ 児童の反応 ・おはじきで「36こもってすごいね。」と友だちが言ってくれたのがうれしかった。 ・先生は、めんこをひっくり返していたのがすごかった。 ・楽しかった。もっとしたかった。 ・いえでもう一回やってみよう。
	7 自己評価を行う。 ○ 振り返りカードで「むかしからのあそびにちょうせん」の学習を振り返って自己評価を行う。



5 成果と課題

(ア) 自己評価より (※3段階 ◎～よくできた ○～だいたいできた △～もう少しだった)
○ 振り返りカードの結果

評価項目		自己評価 (%)		
		◎	○	△
人間関係形成・社会的能力	大きなこえであいさつしたりおれいをいったりすることができた	71	27	2
自己理解・自己管理能力	ルールやマナーをまもることができた	82	17	1
課題対応能力	さいごまでたのしくかつどうすることができた	86	12	2
キャリアプランニング能力	たのしかったことやわかったことをワークシートにかくことができた	77	18	5

児童の自己評価を見ると、上の3つの項目については、◎と○がほとんどであり、意識が高まったようである。ただキャリアプランニング能力については、△を付けた児童が他の項目に比べると多かった。△を付けた児童にそのわけを聴いてみたところ、ワークシートにうまく絵をかくことができなかったということであった。

(イ) 成果と課題

- お手伝いに関して学校と家庭が協力して様々な実践を通して、児童は自分も家族の一員であることに気付き、意識を高めることができた。
- お手伝いに関してのアンケートの結果をみると、今もお手伝いを継続している児童も多く全体として児童の意識は高まってきたが、もうお手伝いをやめてしまった児童も少しいたので更に、継続して支援していくことが必要である。
- 友だちとむかしからの遊びを経験することにより、実際にコミュニケーションをとりながら遊ぶことの楽しさや大切さに気付くことができた児童が多かった。
- 道徳では、外部講師を活用しての授業実践を行い、自分たちは、回りの人にお世話になっていることに気付き、感謝の気持ちをもたせることができた。
- キャリア教育年間計画に沿って学年で協力して計画的そして意図的に実践することができた。
- 核となる活動以外でも1学期にしろやま支援学校の先生を招いて学年全体で聴覚に障害についての理解を深めることができた。さらに歯科の矯正のための器具を装着している児童についても学年集会の場で話をすることにより障がいがある人やいろいろな事情がある人に対する児童の意識が高まった。